

Social and Sustainable business standard

## CONTENTS

---

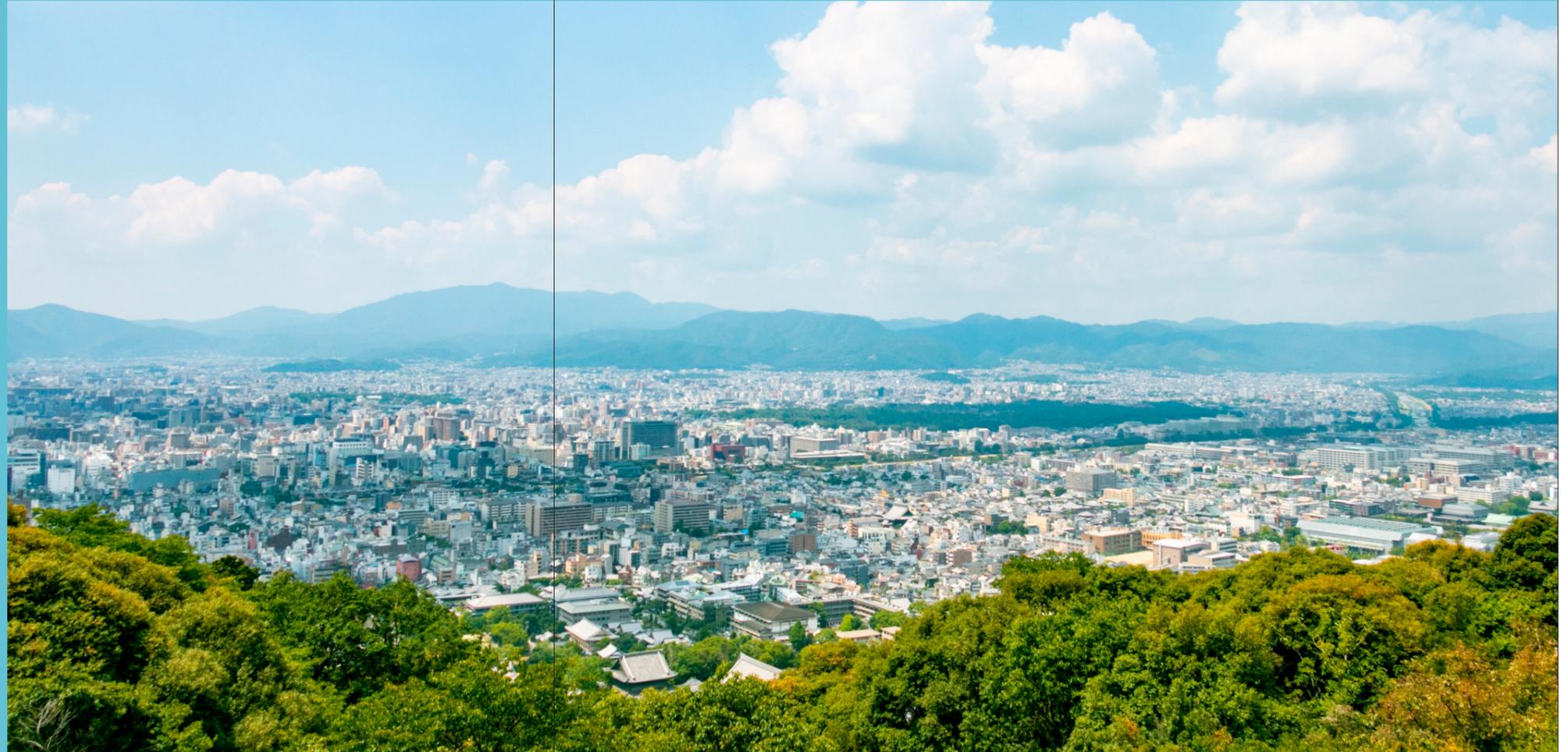
### Chapter 1

01. ソーシャル企業認証制度(S認証)	04
02. S認証の事業	06
03. 地域資源の減価から増価へ	08
04. S認証から見た地域金融機関の ゼブラ化支援の課題と取組み仮説	10
05. S認証機構が目指すエコシステム	12
06. 課題解決のための方法(ロジックモデル)	14

### Chapter 2

01. ROOTSの事業内容/ビジョン	18
02. リジェネラティブツーリズムとは	20
03. XWISDOM SYMPOSIUM	28
04. 京北地域の課題構造分析マップ	30
05. 課題解決のための方法(ロジックモデル)	32
06. 課題解決のための方法(社会的財務諸表)	34
07. ROOTS ビジョン	36

# Chapter 1



ローカル・ゼブラ企業創出支援機関

## ソーシャル企業認証機構

Social and Sustainable business standard

# 01 ソーシャル企業認証制度 (S認証)

Social and Sustainable business standard

## ソーシャル企業認証制度 (S認証) とは

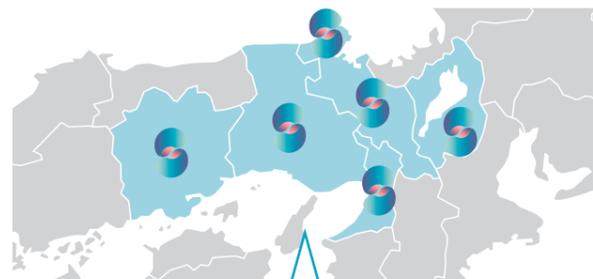
### 地域と共に成長する企業へ。S認証が導く未来。

ソーシャル企業認証制度 (以下、S認証) とは、ESG経営や社会課題の解決を目指す企業に対し、経営方針、事業内容、社会的インパクトなどを基準に評価・認証を行う制度です。この制度は、認証企業の取り組みや想いを可視化し、社会課題に取り組む企業を応援することで、地域社会のソーシャルマインドを醸成し、持続可能な地域社会の実現を目指しています。また、認証制度を軸とした企業・消費者のエコシステムを構築し、地域経済の持続的成長に繋げることを目的としています。

### S認証設立の経緯

S認証は、地域経済の持続的成長のためには地域で直面する様々な社会課題の解決と、地域エコシステムの再構築が必要であるという考えのもと、2020年12月7日に、京都信用金庫、京都北都信用金庫、湖東信用金庫、龍谷大学ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンターの4者間で締結された「ソーシャル企業認証制度の創設及び推進に関する連携協定」に基づき設立されました。

この連携協定は、社会課題の解決を目指す地域の企業を評価・認証する制度、その企業活動の社会的インパクトを「見える化」し、社会課題に取り組む地域企業の成長を支援することを目的としています。現在では但馬信用金庫、玉島信用金庫、枚方信用金庫も連携協定に参画し6つの地域金融機関が地域と組織を超えて連携して取り組んでいます。



#### 連携金融機関6信用金庫

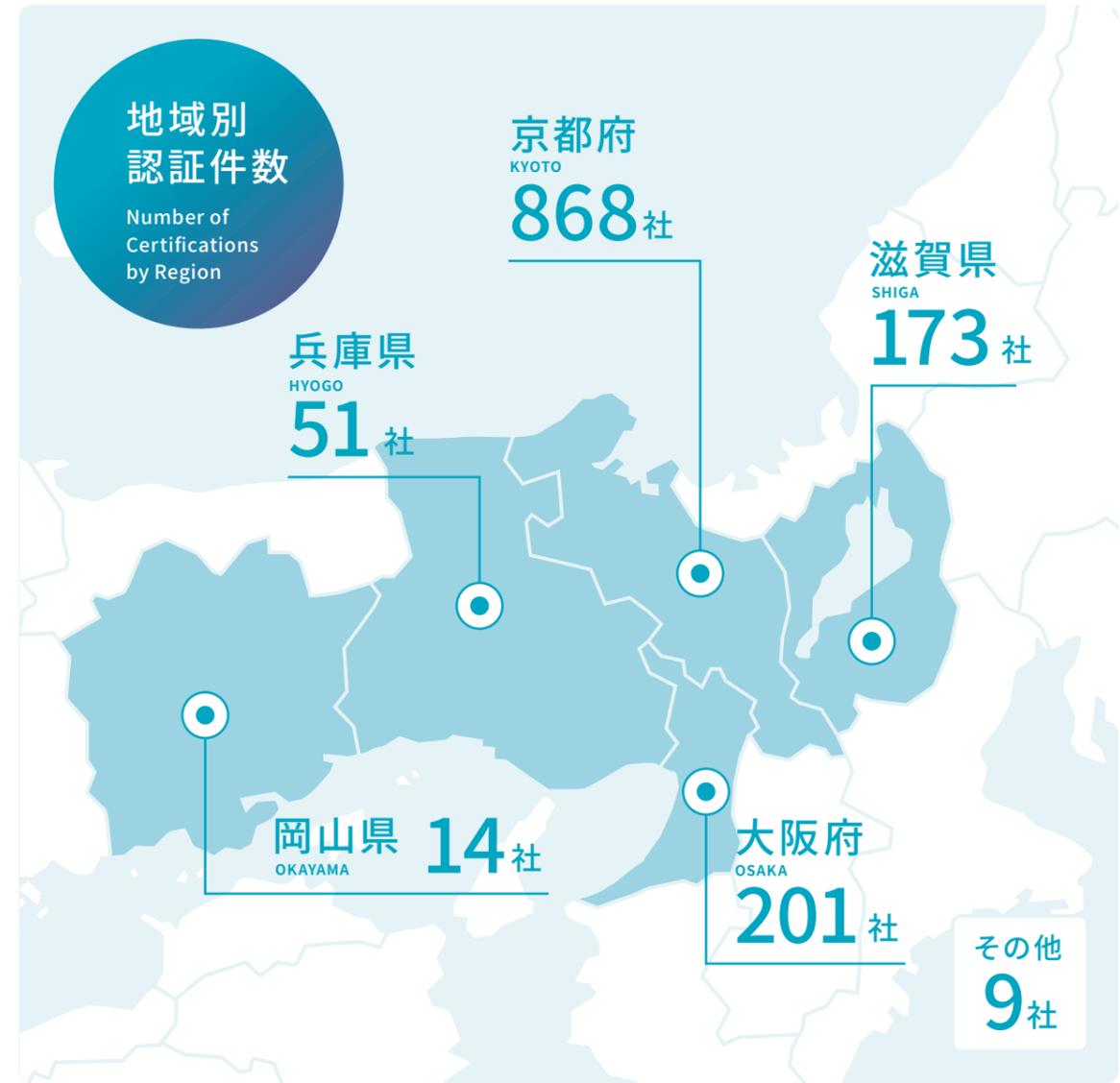
- 京都信用金庫(京都府)
- 但馬信用金庫(兵庫県)
- 京都北都信用金庫(京都府)
- 玉島信用金庫(岡山県)
- 湖東信用金庫(滋賀県)
- 枚方信用金庫(大阪府)

### S認証企業数



## 地域別認証件数

Number of Certifications by Region



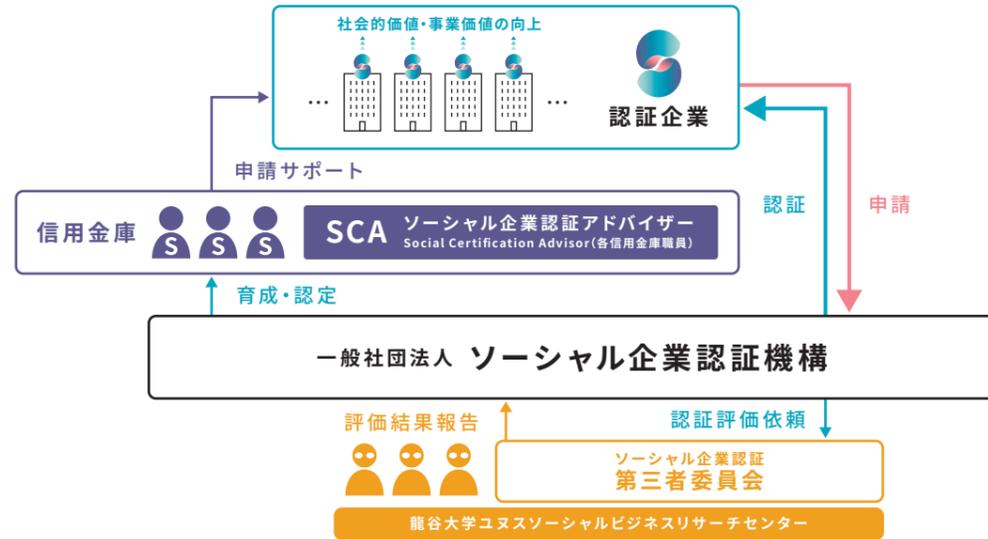
## 社会課題の10項目



# 02 S認証の事業

Certification and Ecosystem Building

## 01. 認証事業



当認証制度における各関係者の関係性は図表の通り。特徴は、地域金融機関や大学との密接な連携を通じて、地域経済の持続的成長やコミュニティの形成を目指している点です。このように、S認証は地域密着型の支援体制を構築し、企業と地域社会が協働して持続可能な発展を追求する点、加えて、連携金融機関においてS認証制度を活用した金融商品などの開発により、より高い波及効果を得られることとなります。

## 02. エコシステム形成事業



経営者の交流機会



連携金融機関イベント

エコシステム形成のためには認証による可視化では不足しており、このため認証企業同士の連携、認証企業と地域の人々(消費者)とを繋ぐために認証企業同士の交流会(対面やオンライン)等により共通の価値観を持つ企業同士のネットワークを構築します。また企業と消費者が共に社会課題に取り組む仕組みを推進するために、出会う場や企業の取り組みやその想いを知る場づくりを連携金融機関と共に取り組んでいます。

## 03. 金融機関によるS認証の活用

当機構に連携する金融機関において地域活性化を推進するためにS認証を活用した取組が進んでいます。当レポートでは、本事業で連携している京都信用金庫が、S認証を活用した地域エコシステムの構築を目指す金融商品の取り扱いや地域コミュニティ創出のための取り組みを紹介します。

## 京信 ソーシャルグッド預金(S預金)

京都信用金庫(京都府)

京信ソーシャル・グッド預金は、京都信用金庫が提供する定期預金商品で、預金者の「世の中を少しでも良くしたい」という想いを地域企業に託すことを目的としています。



※本商品は但馬信用金庫でも提供され、他の金融機関でも導入の検討がされています。

### 商品概要



預金者は「地域」「文化」「医療・福祉」「教育」「環境」「働き方」の6つのテーマから一つを選び、そのテーマに沿った地域企業への融資に資金が活用されます。加えて預金者専用公式LINEへの登録が出来、情報提供などを受けることが出来ます。

### 情報提供

預金者には、公式LINEを通じて選択したテーマに関連する地域企業の取り組みや活動情報が提供され、企業との交流やセミナー・体験プログラムへの参加機会も案内されます。



### 実績紹介



SOCIAL GOOD DAY

S認証企業のマルシェ、ワークショップや取り組みの発信を通じて地域の人々に社会によりよいライフスタイルの発信をするイベントです。また、S認証企業への共感者を増やすことも目的としています。(過去2回開催 総参加企業数は182社、来場者数は1,140人)



SOCIAL NIGHT

S認証企業の対面型交流会で、各連携信用金庫で開催されています。S認証という共通項で集うことで、代表者同士の共感による連携創出や新たなソーシャルビジネスなどが生まれています。



LINE情報配信

京信ソーシャル・グッド預金の専用公式LINEの運用により、S認証企業のソーシャルな取り組みに関する動画等や様々なソーシャルに関するイベント情報などを配信。

# 03 地域資源の減価から増価へ

Increasing Regional Value

## 地域社会の「課題」

経済活動の大都市集中によって、地方都市や農村からは人や経済的収益が流出する構造が強化されてきました。就業機会の都市集中が進むことで、地方部では人口減少による担い手不足が深刻化し、コミュニティや地域社会、山林や景観、一次産業インフラを維持することが難しい地域が増えてきています。こうした都市や市場の論理が地域の論理を上回る構造が、地方の社会的・経済的・環境的価値が減価する状況を生み出しています。

### 01 経済活動の都市集中

働く場所の集中 / 消費機会 / 観光公害 / 地方から都市への収益の域外流出

### 02 地方経済の縮小

中小企業の減少 / 分工場経済化による自律性の低下 / 担い手の不足 / 大手資本の進出による地元商店の衰退

### 03 森、里山、里海の維持困難

農林水産業の担い手不足 / 一次産業インフラの老朽化 / 相続による所有権の複雑化

### 04 人口減少高齢化

担い手・後継者不足 / コミュニティ弱体化 / 教育環境の格差による若年層の流出 / 空家の増加

地域と都市の社会・経済・環境的価値の減価

## 地域によって異なる地域課題

### 京都北部エリア

京都北都信用金庫(京都府)

海・里・山と多様なエリアが広がり、地域ごとに異なる文化や豊かな森林資源を活かした林業、内水面漁業など、地域資源が豊富な京都府北部地域。しかし、産業の衰退や交通の不便さ、地域コミュニティの維持といった課題を抱えています。

- ・地域交通網の弱体化
- ・コミュニティの衰退
- ・中小企業の後継者不足
- ・医療・福祉需要の増加
- ・農林の担い手不足

### 湖東エリア

湖東信用金庫(滋賀県)

彦根城や湖東三山などの歴史的観光資源、琵琶湖の恩恵を受けた農業など、豊かな地域資源を持つ滋賀県湖東地域。しかし、地域公共交通の維持や地域経済の活性化、空家問題といった課題を抱えています。

- ・地域交通の弱体化
- ・観光の波及効果が限定的
- ・農林業の担い手不足
- ・空き家
- ・耕作放棄地

### 岡山エリア

玉島信用金庫(岡山県)

温暖な気候を活かした農業や、瀬戸内海の島や豊かな自然を楽しめる岡山県南部。一方で、農業の担い手不足や地域交通の課題、水害対策、観光資源の発掘といった課題を抱えています。

- ・農林水産業の担い手不足
- ・耕作放棄地
- ・地域交通の弱体化
- ・空き家
- ・地域資源を生かした観光ニーズへの対応
- ・防災

### 京都市内・滋賀・大阪エリア

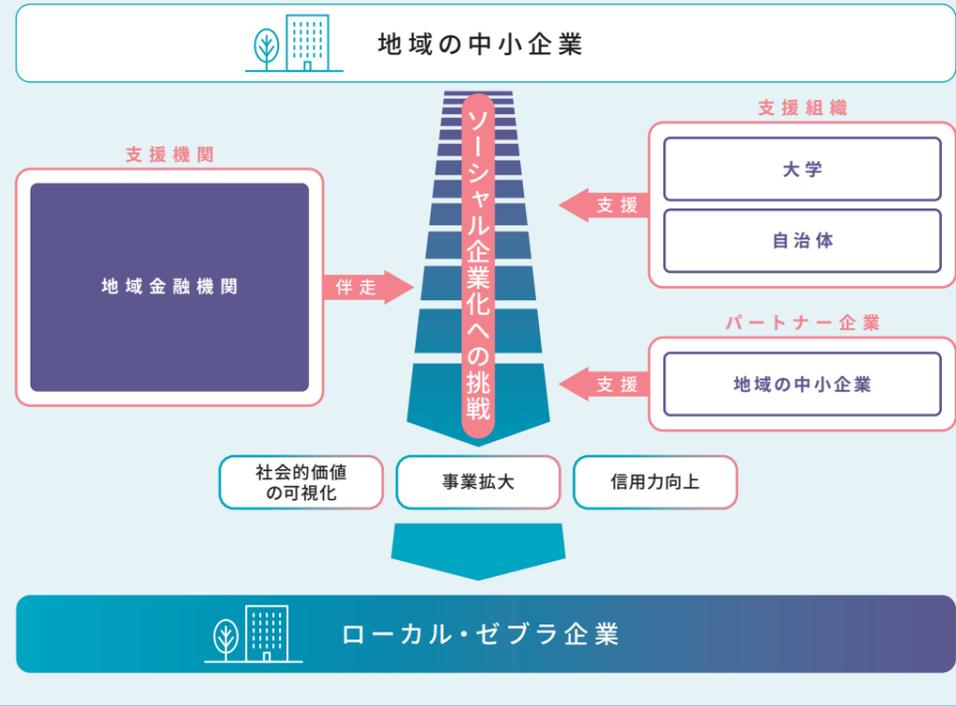
京都信用金庫(京都府)  
枚方信用金庫(大阪府)

京都・大阪の歴史文化的な蓄積と、それを基盤とした産業、歴史的建造物など、多彩な魅力を持つエリア。一方で、観光による生活への影響や後継者不足といった課題を抱えています。

- ・中小企業の後継者不足
- ・地域コミュニティの弱体化
- ・働き手の確保
- ・観光公害

## ローカル・ゼブラ企業・事業の創出

私たちは、地域の中小企業が価値創造の担い手となり、地域金融機関がチェンジ・エージェントとして伴走することで、地域の価値を増大させるシステムを構築します。企業のソーシャル化を支援し、社会的価値の可視化・信用の創出を促進。さらに、その価値を内外に発信し、人材獲得や共同事業の機会を創出することで、新たな経済循環の形成に取り組みます。



地域価値の増価

# 04 S認証から見た地域金融機関のゼブラ化支援の課題と取組み仮説

Challenges and Hypothesis

## S認証を活用した地域課題への対応

### 課題1 ソーシャル分野の言語化・対話が可能な人材と教育の不足

- 現状**
- 社会的価値の創出に関する知識やスキルを持つ人材が不足。
  - 社会課題解決を企業経営の文脈で説明・対話できるカリキュラムが未整備。

- 対応策**
- 教育機関や企業内研修で「社会的インパクト評価」や「ソーシャルビジネス論」を導入。
  - 金融機関やソーシャル企業間で対話プラットフォームを設け、実務者の育成。

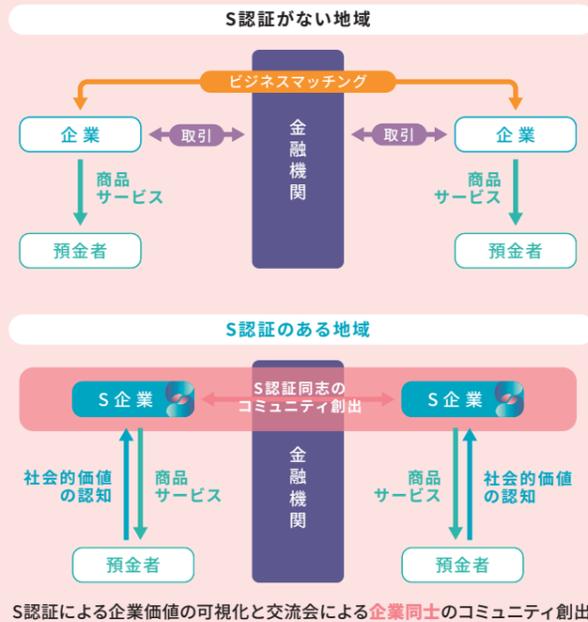
### 課題2 ソーシャル企業に対する評価モデルの確立

- 現状**
- 既存のリスク評価モデル(財務指標中心)ではソーシャル企業の価値を十分に評価できない。
  - 社会的価値や非財務指標の評価が体系化されていない。
  - 社会的価値と財務的持続可能性のバランス分析の実績が少ない。
  - ソーシャル企業の事業フェーズに応じた評価基準が不足。

- 対応策**
- 金融機関の担当者を対象にした社会的インパクト評価トレーニング。
  - 社会的インパクト評価に基づいた融資基準を検討。
  - 事業フェーズごとに異なる評価手法を組み合わせ、柔軟な指標設定。

## 対応仮説 S認証が生み出す地域での関係性

右図のように、S認証の取り組む金融機関が地域に存在することは、地域企業の社会的価値の可視化により取引先企業や消費者との関係性がより強く構築されと考えられます。取引先企業の社会的責任を重視する取引先の増加や、消費に社会的・環境的に配慮されたものを求める消費者も増えており、企業の社会的価値に共感されることに繋がると考えられます。加えて、企業間同士の交流会などによる関係構築を通じたコミュニティ形成がより強い関係性の構築に寄与します。



## S預金を活用した地域価値増加

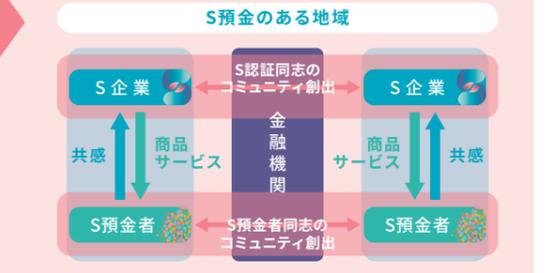
### 課題 ソーシャル企業と地域ステークホルダーとの接点の不足

- 現状**
- ソーシャル企業を知る場、取り組みや社会課題を知る場の不足
  - ソーシャル企業に特化した金融商品やファンドが限定的。
- 対応策**
- 社会参加型の金融商品の開発
  - ソーシャル企業向けにクラウドファンディングや地域通貨などの仕組みを活用。



### 対応仮説 地域ぐるみでの地域価値の増加

S認証に加えてS預金の仕組みがあることで、右図のようにS認証による関係性構築によりエコシステムの構築が可能となります。当預金は企業・個人全ての方が関係することができ、金融機関が紐帯となることで企業+企業、企業+預金者、預金者+預金者という関係性の創出が可能となります。そしてこのエコシステムは経済性のみならず共感といった社会関係資本によるネットワークの構築に繋がります。



金融が紐帯となることで企業同士、預金者同士だけでなく相互にコミュニティ化し**エコシステムの創出**につながる。

## APPENDIX

### 地域金融機関の新たな姿

### 課題 地域連携の橋渡し役の不足

- 現状**
- 地域住民や企業との連携を促進するプラットフォームの不在。
  - ステークホルダー間の対話が断片的。

- 対応策**
- 地域金融機関が調整役として活動するための制度設計。
  - オープンイノベーションの場を提供し、地域課題解決型プロジェクトを推進。

### 対応仮説 課題解決型店舗によるエコシステム形成支援

京都信用金庫の、課題解決店舗では窓口業務を午前中のみとし、午後は店舗職員全員で「地域の課題、事業の課題、くらしの課題」を解決する時間として運用しています。

地域の様々な課題を可視化し自分事として解決するために地域の方々との連携を深めていくこと、既存の金融サービスだけでなく非金融のサービスを実施することで、地域情報のプラットフォームとしての機能を強化していきます。

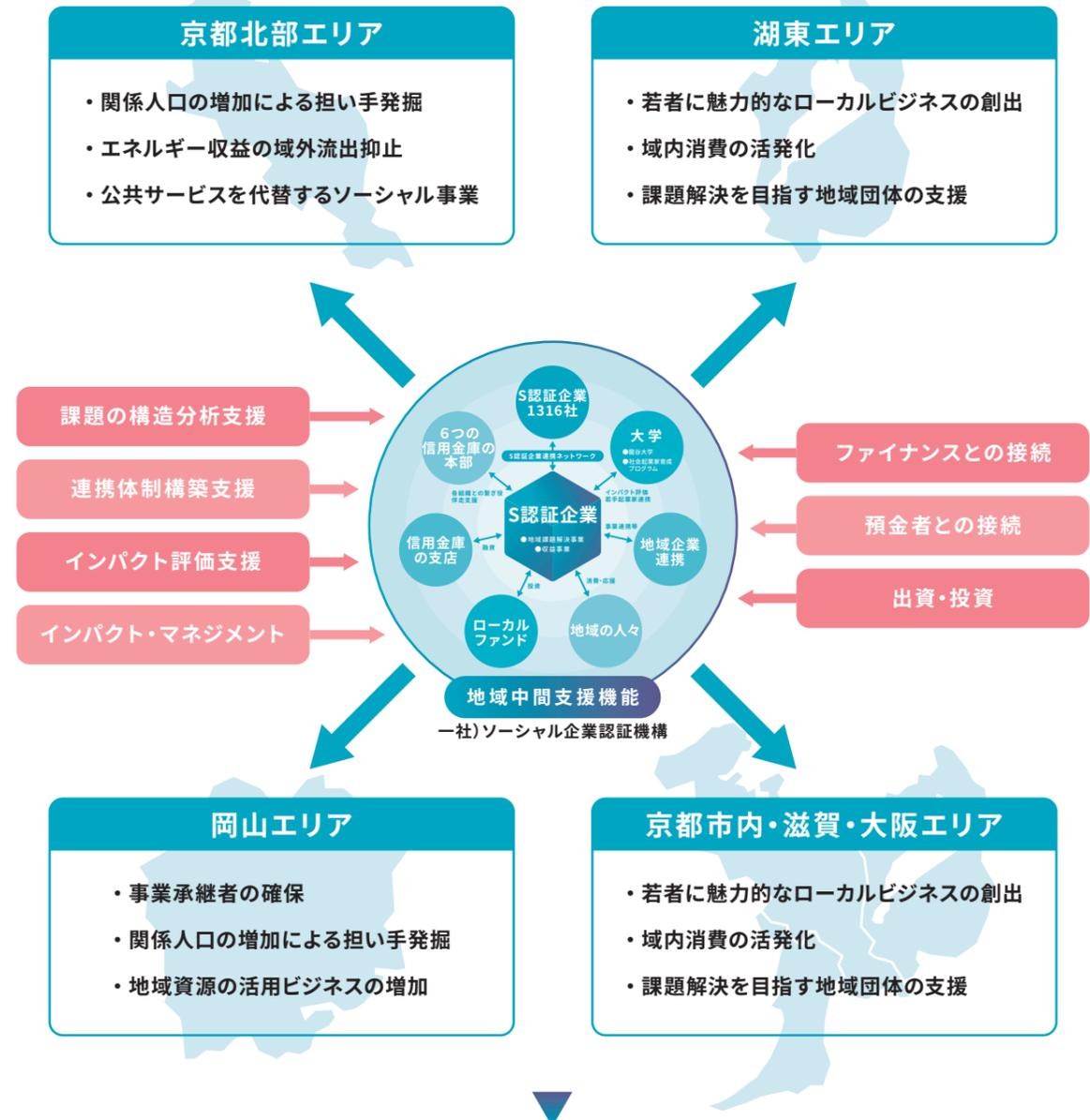
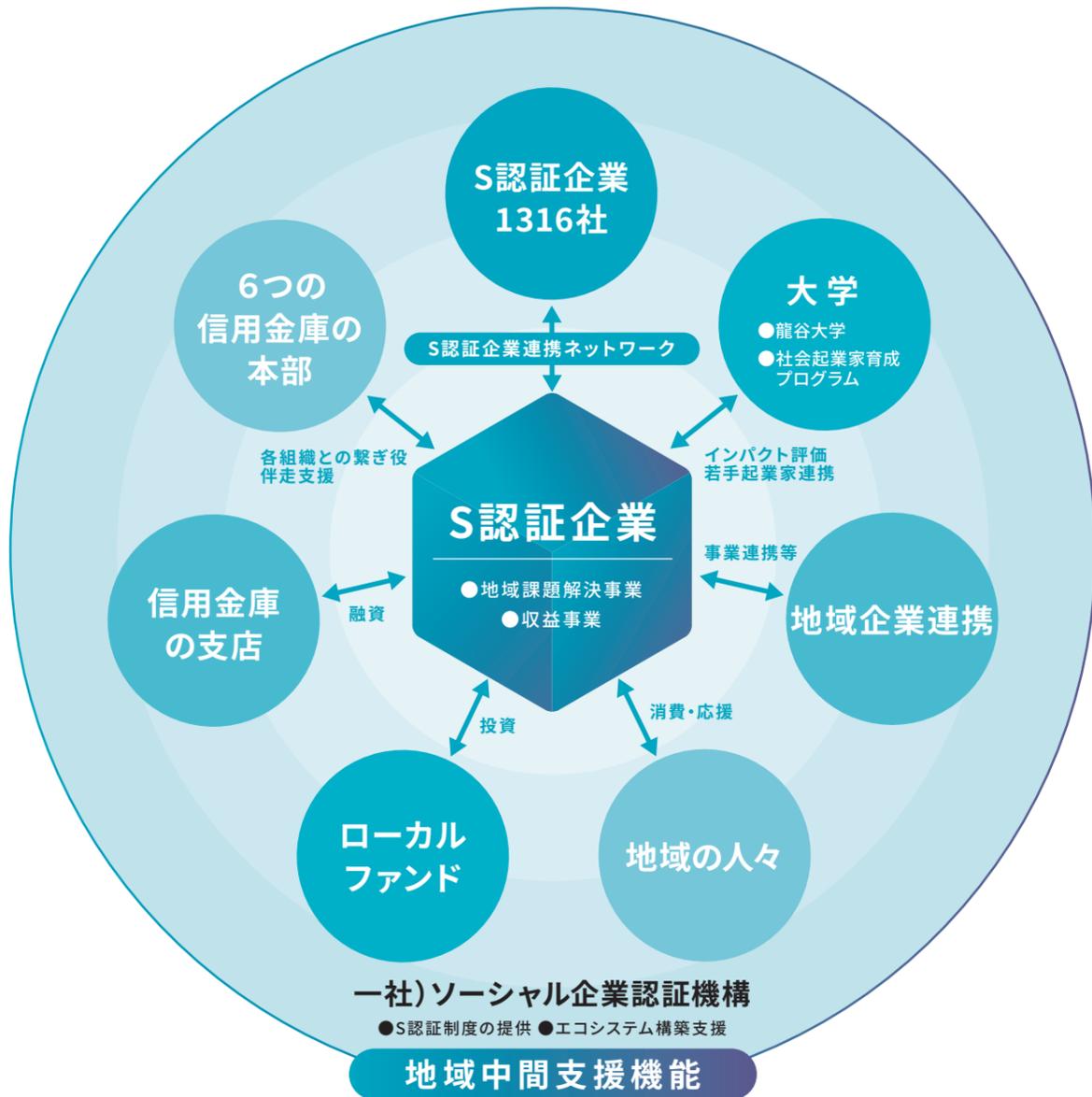


# 05 S認証機構が目指すエコシステム

The Ecosystem build by the Social and Sustainable Business Standard

ソーシャル企業認証機構が目指すエコシステムは、S認証を基盤として、企業・消費者・投資家・行政など多様なステークホルダーが関与しながら、社会課題の解決と持続可能な経済成長を両立させる仕組みです。これにより、企業や地域に社会的価値と経済的価値の両方を高める「循環」を生み出し、長期的に持続可能な社会の実現を目指しています。

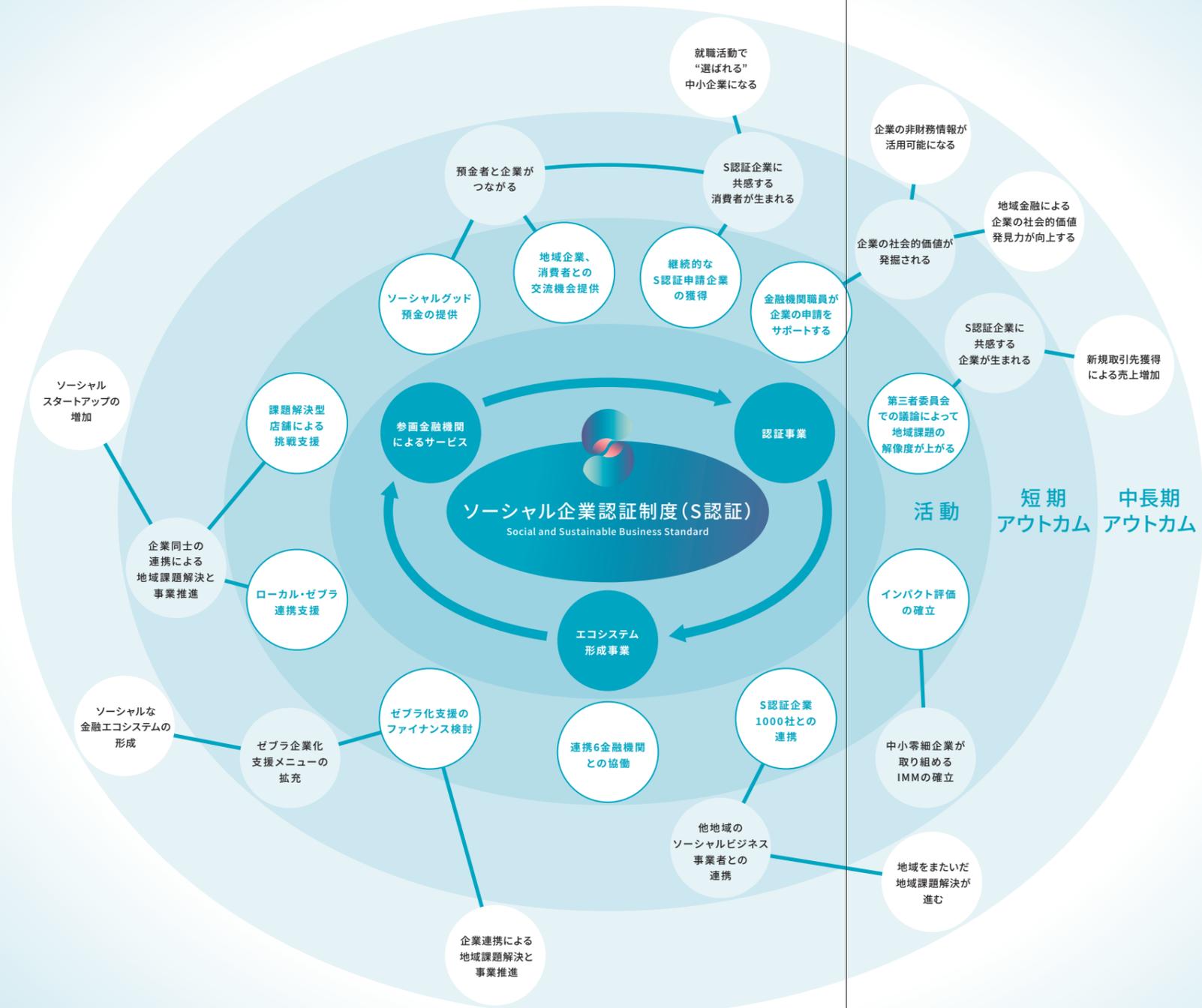
## 機構ステークホルダーマップ



認証機構・金融機関が各地域の課題解決に取り組む  
ローカル・ゼブラ企業をつなぎ、  
ローカルインパクトを創出するプラットフォームへ

# 06 課題解決のための方法(ロジックモデル)

Logic model and Social Impact



## ソーシャル企業認証制度のロジックモデル

S認証は、社会課題の解決に取り組む企業を認証し、社会的価値を可視化する認証事業を軸に、企業・行政・金融機関が連携する地域エコシステムの創出を促進します。さらに、参画金融機関によるサービスを通じて、資金支援のみならず本業支援などにより事業課題の解決にも取り組みます。これにより、ソーシャル企業の成長や地域経済の活性化が進み、最終的には、地域課題を乗り越え続ける地域コミュニティの形成へとつながります。

地域社会における  
ソーシャルマインドを  
醸成し、  
持続可能な  
地域社会へ

# Chapter 2



京都里山のローカル・ゼブラ企業

## 株式会社ROOTS

旅を通して地域をデザインするリジェネラティブツーリズム

# 01 ROOTSの事業内容 / ビジョン

ROOTS / SOCIAL GOOD COMPANY



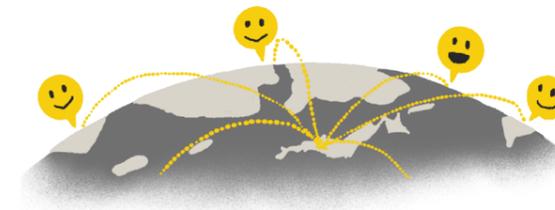
ローカル・ゼブラ企業

## 株式会社ROOTS

### 旅を通して地域をデザインする リジェネラティブツーリズム

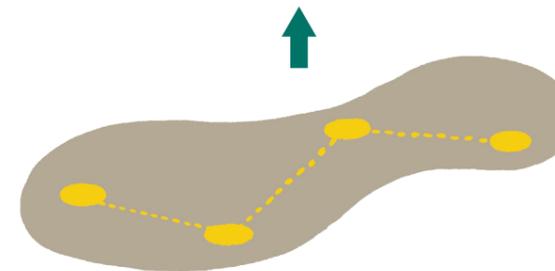
私たちROOTSは、京都の京北に拠点を置き、「地域の智慧を世界につなぐ」をコンセプトに日本の里山・里海が継承してきた循環型の暮らしを、世界が参照できる「学びの場」として提案するソーシャルデザインカンパニーです。京都の里山には1000年にわたる伝統や技術、暮らしの智慧が息づいています。これらの智慧には持続可能な未来に向けたヒントがたくさん含まれています。私たちはこれを「Local Wisdom」と呼び、それをグローバルな視点である「World Perspective」と結びつけることで、新たな知識や地域事業、そして次世代の人材を育成しています。

代表者：中山 慶\_代表取締役(共同代表) / 井上 緋蘭\_代表取締役(共同代表)・ソーシャルデザイナー



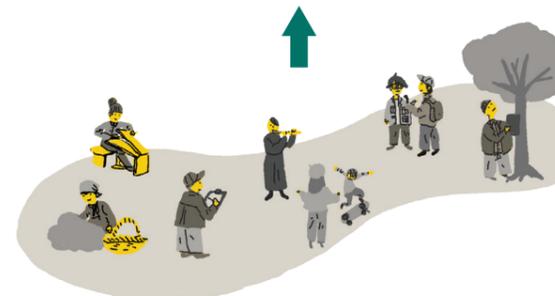
### 国際ネットワーク

独自のネットワークで世界の教育機関・行政・NPO・NGOと連携し「旅」を通して里山の智慧を世界に繋がります。



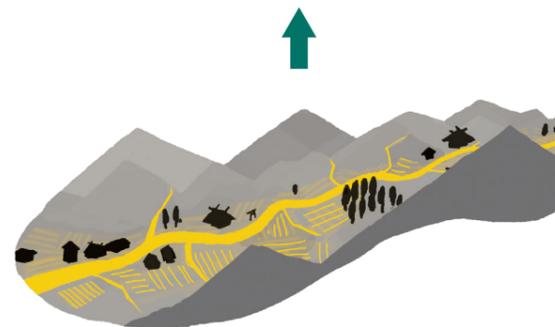
### 旅のデザイン

「旅」のデザイン・人材育成・広報発信など、地域と共に「旅」の事業を醸成します。



### 地域の智慧を継ぐマイスター

地域の伝統・技・暮らしの知恵を可視化し、暗黙知を持続可能な智慧として編集します。



### 地域の風土を深く理解

地域文化、風土、産業を深く学び、地域ごとの個性や可能性を捉えます。

# 02 リジェネラティブツーリズムとは

Regenerative tourism

「リジェネラティブツーリズム」  
を通じて関係人口を増やし、地域の価値を創造。

京北は観光資源が無い地域ですが、1000年を継ぐ地域の智慧といった文化資源が沢山あります。私たちは先人の智慧に触れ、身体を通して自分自身とつながりなおし、里山を通じて持続可能な社会を考える体験プログラムを提供しています。滞在期間の異なる3つのプログラムでは、参加者と共に「地域デザインのアウトプット」を創り出し、新たな地域の価値を創造します。

## ① SATOYAMA JOURNEY

短期滞在研修 1~7日

地域貢献型の国際教育研修

## ② SATOYAMA RESIDENCY

中期滞在研修 1~2ヶ月

①に参加した学生がインターンシップで再訪

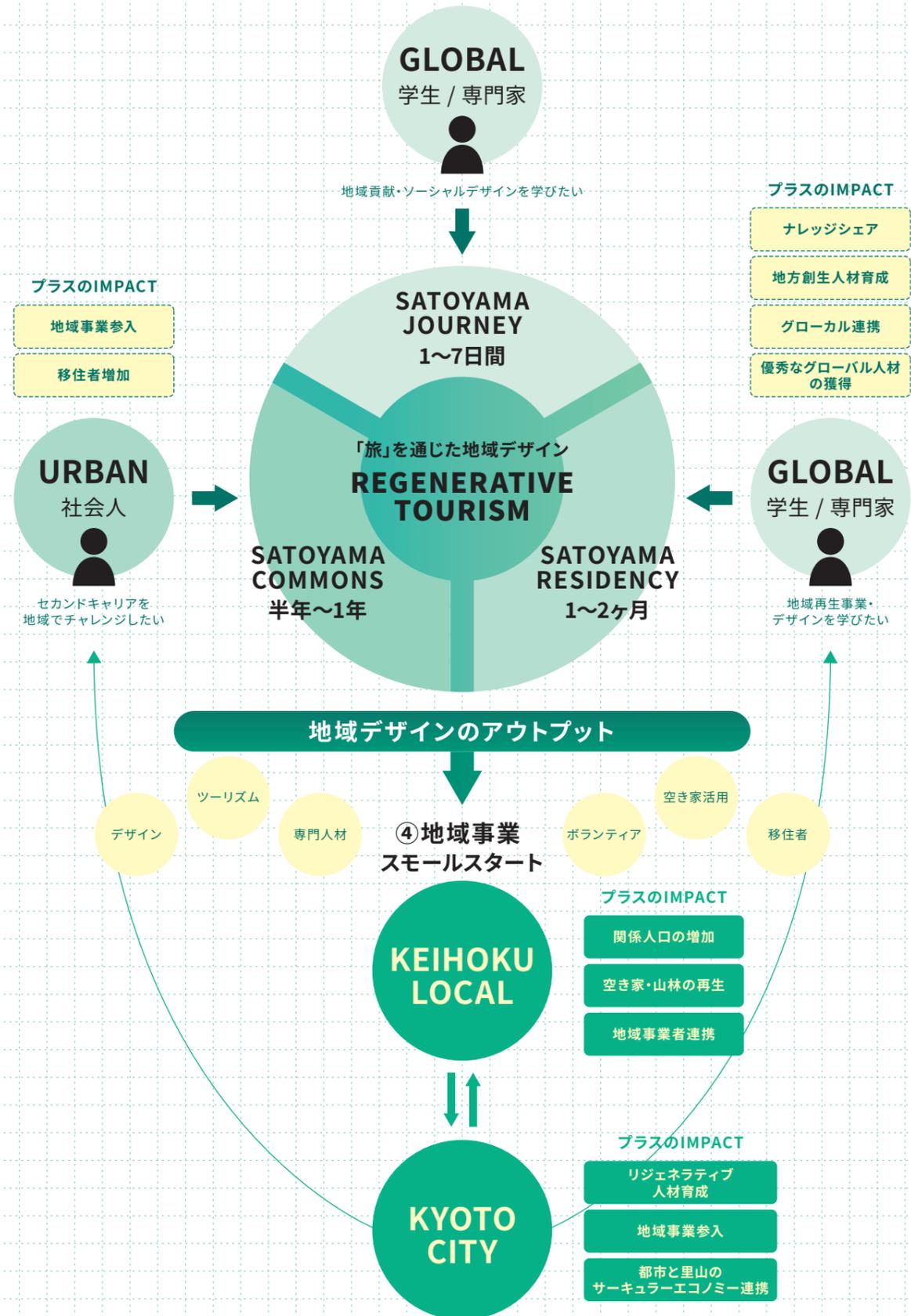
## ③ SATOYAMA COMMONS

長期オンライン研修 半年~1年

②に参加した人が再訪・地域事業創造プログラム

### 地域デザインのアウトプット&スモールスタート

①~③の関係人口により小さな事業が生まれる



リジェネラティブツーリズム事例

# ① SATOYAMA JOURNEY



対象者  
企業SDGs研修・CSR  
教育機関

## 地域再生デザイン教育研修

京北の林業は年々獣害の被害が増えており、材木の価値の低下につながっています。本プロジェクトでは、熊の被害により皮が剥がれてしまったクマハギ材を活用し、京都府立ゼミナールハウスのリノベーションを香港理工大学の学生と共に行いました。

## 森と人の関係を Regenerateする

杉・檜といった林業以外の森の活用として、ジビエハンターと共に獣害である鹿を狩猟する体験や鹿肉を解体しジビエカレーにして食べる体験など、森と人との関係を Regenerateします。

## J-クレジットを掛け合わせた山の価値の最大化

今後は地元林業家との連携を行い、これらの体験をJ-クレジットを購入される企業に、CO2のオフセットと合わせて体験ツアーとして提供することを構想しています。

## 地域デザインのアウトプット



リジェネラティブツーリズム事例

## ② SATOYAMA RESIDENCY



対象者  
企業SDGs研修・CSR  
教育機関

### 地域再生インターンシップ

日本の地方創生デザインを学びたい海外のデザイン学生が京北に滞在し、人手不足に悩む伝統職人のアシスタントとして技術を学びながら、草刈りなどの地域活動にも参加し、地域に貢献します。

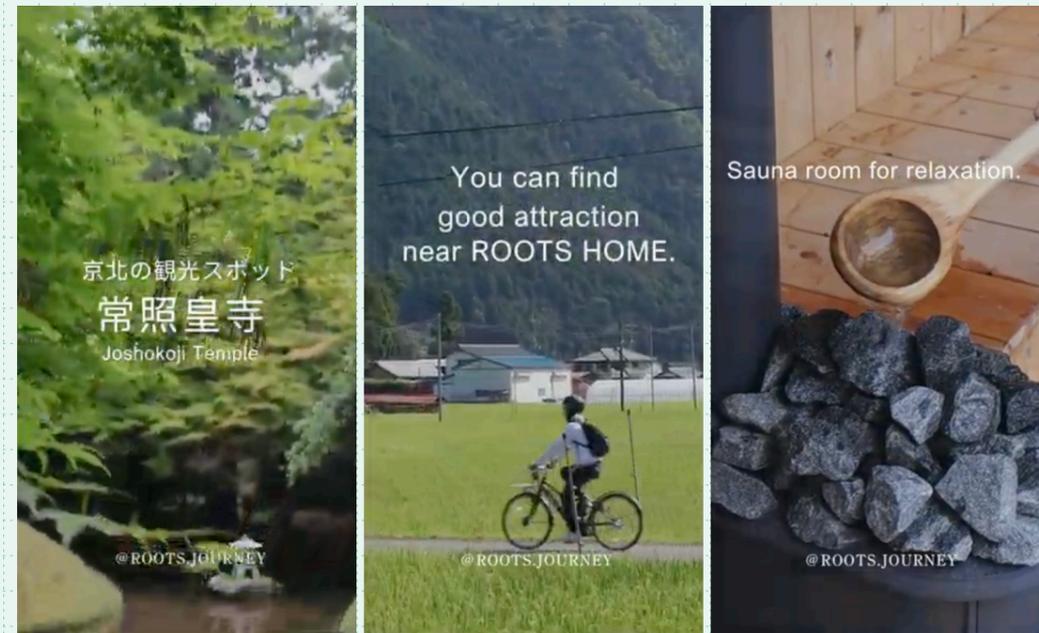
### 地域の価値やアイデンティティをRegenerateする

学生たちは約1ヶ月間滞在し、地域の文化や暮らしに触れながら、その魅力を発見。職人との交流や作業を通じて学んだことを活かし、SNS向けの動画を制作し、地域の価値を世界に向けて発信します。

### インターンシップの他地域展開

台湾の大学では地方創生デザインを学ぶニーズが高まっており、本プロジェクトでは京北地域にとどまらず、郡上や丹波篠山にも6名の学生を紹介しました。各地の伝統産業や地域資源を活かし、学生たちがそれぞれの地域ならではの課題や魅力を深く理解しながら、持続可能な地域づくりに貢献できる仕組みを構築しています。これにより、地域の活性化はもちろん、学生たちにとっても貴重な実践的な学びの場となり、新たなデザインの視点を養う機会となっています。

### 地域デザインのアウトプット



## ROOTS

August 30, 2024

Interns from Taiwan

### 台湾インターン ファイナルプレゼン

時間： 8月30日20時～  
食事会 17時半～19時半

場所： Roots tehen or ZOOM  
京都市右京区京北比賀江町水落37



リジェネラティブツーリズム事例

### ③ SATOYAMA COMMONS

京都・京北

里山と世界がつながる 180日  
世界のトビラ道場

道場生募集

2024年5月1日 スタート



トビラが開く3つの鍵

- 1/ 里山で国際交流
- 2/ みんなの古民家
- 3/ 山林や畑を活用

選べる2つのプログラム

<p>オススメ！ オンライン×現地フィールド</p> <p><b>13万円（税抜）</b></p> <p>自由に泊まる古民家 <b>30泊つき</b></p> <p>月に一度オンラインプログラム</p> <p>フィールド体験 国際交流 手仕事体験 里山プロトタイプ</p>	<p>オンラインプラン</p> <p><b>8.9万円（税抜）</b></p> <p><b>3泊つき</b></p> <p>京北地域フィールド紹介 地域事業の立ち上げ方 各自メンタリングなど</p>
--	---

京都の里山で、世界のなかまと共に地域との関わり合いを通じて新たなライフとワークを共に追求していく **Life Seeking Journey**

#### 参加者：地域でセカンドキャリアを試行する企業人

企業でリモートワークができるようになり、都市以外での副業の可能性を探る人が増えています。私たちは空き家を活用し、リモートワークが快適に行え気軽に再訪できる場所を提供します。副業を模索したり、リモートワークで地域貢献を望む人などに対して、地域事業者を円満に繋げる仲介者がローカルコーディネーターです。地域の活用されていない山林や畑など、地域の信頼がある私たちが間を繋げることで良好な関係を築きます。

#### オンラインとオフラインでコミュニティをつなぐ

参加者は年間プログラムを通じて自由にいつでも30泊できます。再訪のきっかけとなる地域イベントや各自のプロジェクトを私たちがメンターになり支援します。

#### 働き方・地域・空き家を Regenerateする

経済資本以外の人生の探求、新たな空き家の活用など移住ではない新たな価値の創造がはじまっています。

### 地域デザインのアウトプット



My Career Retreat

わたしの生き方（キャリア）を見つめ直す時間

陰陽五行  
瞑想  
菓子と茶

2024.9.23 MON  
13:30-16:30

at 河原町丸太町  
ことぶき

A CALM RETREAT

わたしが、わたしにやさしくなれる2日間

# 03 XWISDOM SYMPOSIUM

XWISDOM SYMPOSIUM

## 地域の知恵と世界の智慧が響きあい 新たな創造を起こす国際シンポジウム

XWISDOM SYMPOSIUM は、1000年を継ぐ「地域の智慧」を世界に繋ぐことで、新たな価値を生み出す場として開催されました。人類は長い歴史の中で、その土地の風土や自然周期を活用した様々な「智慧 - WISDOM」を育んできました。本シンポジウムでは、地域に積み重ねられた先人たちの持続可能な智慧を探求し、「世界の視点」を繋げながら、リジェネラティブな未来を創造することを目指しました。私たちはこの取り組みをXWISDOM と呼び、その実践方法やビジネス事例が紹介されました。

イベントでは、トークセッションやワークショップを含む多彩なプログラムが展開されました。日本の地域文化を次世代に継承するプレイヤーや、台湾、香港、フランス、イタリアなど、世界各地で地域文化を育むプレイヤーが一堂に集結しました。地域が持つ固有の知恵や価値を世界と響き合わせながら、持続可能な社会の実現に向けた議論が行われました。

また、地域創生、人材育成、事業創出、そして社会システムのデザインについて包括的に考え、未来へ繋がる新しいアプローチを見出す機会となりました。シンポジウムを通じて生まれた多くのアイデアやネットワークが、今後の実践へと繋がっていくことが期待されます。



## SPEAKERS

XWISDOM SYMPOSIUMでは、5つのクロストークセッションを開催しました。



中山 慶

**株式会社ROOTS 共同代表**  
英語・中国語のガイド・通訳・講師、世界80か国以上を主に仕事で旅しながら、独学で学んだ外国語を操る、旅の編集者であり、異文化コミュニケーションのコーディネーター。「Local Wisdom 地域に宿る知恵」をテーマに、中山間地域の知られざる魅力を国内外に伝えています。



曾 緋蘭

**株式会社ROOTS 共同代表**  
サンフランシスコでHuman Centered Designを中心とした社会課題解決型のデザインに携わり、帰国後ヘルスケア事業のプロダクト企画・戦略デザインを行う。現在は里山地域に住みながら里山の知恵を世界のサステナブルな知恵に活用する「Nature Centered Design」を教育研修と共に実践している。



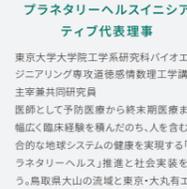
メラニー ヘレスバック

**セバスチャン ノー**  
2m26  
建築家でありアーティストであるふたりが「2m26」というブランドを名乗り始めたのは2015年。現在は京都の里山をフィールドに「生きる建築」をテーマに、伝統技術を活用して馬小屋や末小屋などを建築し、「人と動物とマテリアルの相互的な関係性の建築デザイン」をプロトタイプしている。



桐村 里紗

**天籟株式会社代表取締役医師 (公財)日本ヘルスケア協会**



比屋根 隆

**株式会社うむさんラボ 代表取締役**  
沖縄県那覇市出身。沖縄国際大学在学中に起業。1998年IT企業のレキサスを創業。沖縄発にこだわった新規事業開発及びスタートアップ創出を実施。2008年次世代リーダーの発掘・育成プロジェクト「IT frogs (地球frog)」創設。2018年うむさんラボを始動し「豊かさを分かち合える新たな経済や社会の仕組みをデザインする研究所」をコンセプトに「人・事業・仕組み」づくりを育む活動を行う。



岡野 春樹

**一般社団法人長良川カンパニー 代表理事**  
東京大学大学院工学系研究科  
1989年生まれ。慶應義塾大学総合政策学部を卒業後、大手広告会社に入社。自治体のブランディングや官公庁の広報に携わった経験から、日本各地を旅する「Deep Japan Lab」を設立。その旅の活動で岐阜県上市との縁ができ、夜の川に入って船をとった経験から、源流域に魅了され郡上市に移住。現在は家族5人で暮らしながら、源流の節節となることを目指し法螺貝を吹いたり、ホラを吹いたりしている。



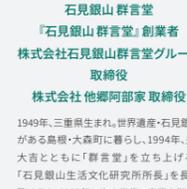
北林 功

**COS KYOTO株式会社代表取締役**  
エドノミ〜® 研究者  
(一社)Design Week Kyoto実行委員会 代表理事  
1979年、奈良県生まれ。大学在学中、総務庁(現内閣府)の国際青年育成交流事業フィンランド派遣団に参加。行政や教育、デザインについて学ぶ。2002年卒業後、大阪ガス株式会社に入社し、京都でエネルギー関連設備の営業に従事。2007年株式会社グロービスに転じ、東京で人材育成コンサルタントとして活動。



松場 登美

**源流案内人**



MICHAEL CHAN

Michael Chan, an architect and Management Council Member at the Wu Zhi Qiao Charitable Foundation, has been dedicated to village development projects in China since 2003. Over the past two decades, he has led the completion of 32+ projects, such as footbridges and community centers across various provinces. In 2018, he expanded his initiatives to Japan, collaborating with Roots Inc. and Northern Alps Learning Tour Agency LLC in prefectures like Kyoto and Nagano. Recently, his work in Hong Kong's Kuk Po village, funded by the HKSAR government (7.3M HKD), included educational programs, documentation projects, and festive events during Chinese New Year. Michael's village improvement projects promote collaboration among villagers, students, professionals, NGOs, and government agencies, focusing on research, design, and construction for sustainable community growth and prosperity.



相良 育弥

**株式会社さかむり代表取締役**  
神戸市北区淡河町を拠点に、伝統的な茅葺きの修復から、現代的な茅葺き造形の挑戦している。建物だけでなく、さまざまな方向から茅葺きの持つ可能性や魅力を探っている。平成27年度神戸市文化奨励賞、第10回地域再生大賞 優秀賞、ジャパンアウトドアリーダーズアワード2020 優秀賞、第14回創造する伝統賞 ロペ財団 クラフトプライズ、Loewe Craft Prize 2024 ファイナリスト。



齋藤 由佳子

**社会的共同組合JiEN共同代表**  
イタリア土壌再生コンソーシアム JINOWA代表  
京都芸術大学食学部ガストロノミー学専攻 教員  
2011年よりイタリア ビエンツォ州に在住。2014年にイタリア政府公認ソーシャルイノベーションスタートアップ制度にて初の外国人起業家としてミラノに食文化教育ベンチャー Genuine Education Network (GEN) を創業。イタリア食科学大学公式パートナーとしてガストロノミーフィールドスタディプログラムや日本食文化・発酵コースを展開。2016年日本法人 株式会社 GEN Japan を創業。伝統食を世界各国のシェフや建築家などインベーターに学んでもらうマスターコースを構築し欧州を中心に30か国以上から参加者を集める。UNESO食文化創造都市に認定される山形県鶴岡市、三重県の御食園戦略など日本の地方行政の食文化による地方創生や文化教育政策アドバイザーなどを歴任。2020年に土をよくなる社会を目指す国際企業コンソーシアムJINOWAを発起。2024年



井上 博斗

1983年香川県生まれ。幼少より郷土芸能「獅子舞」に親しんだことで、各地の神事や祭礼の芸能から、現代舞台芸術に関心を



MICHAEL CHAN

もつ、2010年より白山麓郡上を拠点に暮らしと民謡のフィールドワークを継続。また、日本人の身体観を取り戻す種古トランスワークを開発、開講している。2021年より長良川カンパニーに参画し、コンセプト「源流遊行」を発見。現在、白山麓の芸術性を蘇生すべく、山伏祭文を再創造している。



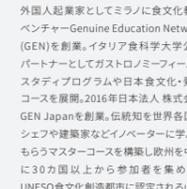
MICHAEL CHAN

1974年兵庫県生まれ。フランスの服飾専門学校ESMODの白仏通訳・翻訳、アルジェリアでの日本企業コンサルタント(鹿島・西松・伊藤忠など)による高速道路建設プロジェクト通訳翻訳スタッフなどを経て、現在フランスブルターニュ地方、カンパル市にあるアジア市場に特化したEMBAビジネススクールでフランス人学生への日本語指導、交換留学担当、日本のインターンシップ受け入れ企業の開拓などを務める。それに平行し、アソシエーション「TOMOE」として京都府立海洋高校とフランス現地の海洋高校の正式提携に向けた活動をROOTSさんやTangonionさんの協力関係の中で行うほか、日本とブルターニュ地方を繋げる活動に取り組む。



MICHAEL CHAN

1978年、香川県生まれ。ローマン・ブラスなど複数の外資系金融機関を経て2012年に帰郷(株)459を創業し、地域資源を活用したローカルビジネスの開発を手掛ける。2014年には編集長として「四国食への通信」を創刊。2017年、長男の誕生を機に妻の美家のある関西に拠点を移し、実務と研究の両面から食分野の課題に取り組むようになる。現在は、龍谷大学経営学部特任准教授として大学教育に携わるとともに、食農ビジネスに関わる複数の企業で、経営戦略の構築や、新規事業の開発に取り組んでいる。



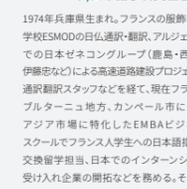
MICHAEL CHAN

から国内では発酵する社会を設計する社会的共同組合JiEN(LLP)を土の建築家、遠野未来と設立し共同代表へ就任。地域らしさと地域プライドを高めるローカル教育設計を担当。



早川 裕子

**EMBAビジネススクール (フランスブルターニュ地方、カンパル市)日本語科責任者**  
1974年兵庫県生まれ。フランスの服飾専門学校ESMODの白仏通訳・翻訳、アルジェリアでの日本企業コンサルタント(鹿島・西松・伊藤忠など)による高速道路建設プロジェクト通訳翻訳スタッフなどを経て、現在フランスブルターニュ地方、カンパル市にあるアジア市場に特化したEMBAビジネススクールでフランス人学生への日本語指導、交換留学担当、日本のインターンシップ受け入れ企業の開拓などを務める。それに平行し、アソシエーション「TOMOE」として京都府立海洋高校とフランス現地の海洋高校の正式提携に向けた活動をROOTSさんやTangonionさんの協力関係の中で行うほか、日本とブルターニュ地方を繋げる活動に取り組む。



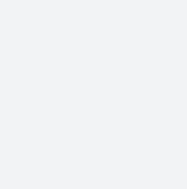
MICHAEL CHAN

1978年、香川県生まれ。ローマン・ブラスなど複数の外資系金融機関を経て2012年に帰郷(株)459を創業し、地域資源を活用したローカルビジネスの開発を手掛ける。2014年には編集長として「四国食への通信」を創刊。2017年、長男の誕生を機に妻の美家のある関西に拠点を移し、実務と研究の両面から食分野の課題に取り組むようになる。現在は、龍谷大学経営学部特任准教授として大学教育に携わるとともに、食農ビジネスに関わる複数の企業で、経営戦略の構築や、新規事業の開発に取り組んでいる。



MICHAEL CHAN

1978年、香川県生まれ。ローマン・ブラスなど複数の外資系金融機関を経て2012年に帰郷(株)459を創業し、地域資源を活用したローカルビジネスの開発を手掛ける。2014年には編集長として「四国食への通信」を創刊。2017年、長男の誕生を機に妻の美家のある関西に拠点を移し、実務と研究の両面から食分野の課題に取り組むようになる。現在は、龍谷大学経営学部特任准教授として大学教育に携わるとともに、食農ビジネスに関わる複数の企業で、経営戦略の構築や、新規事業の開発に取り組んでいる。



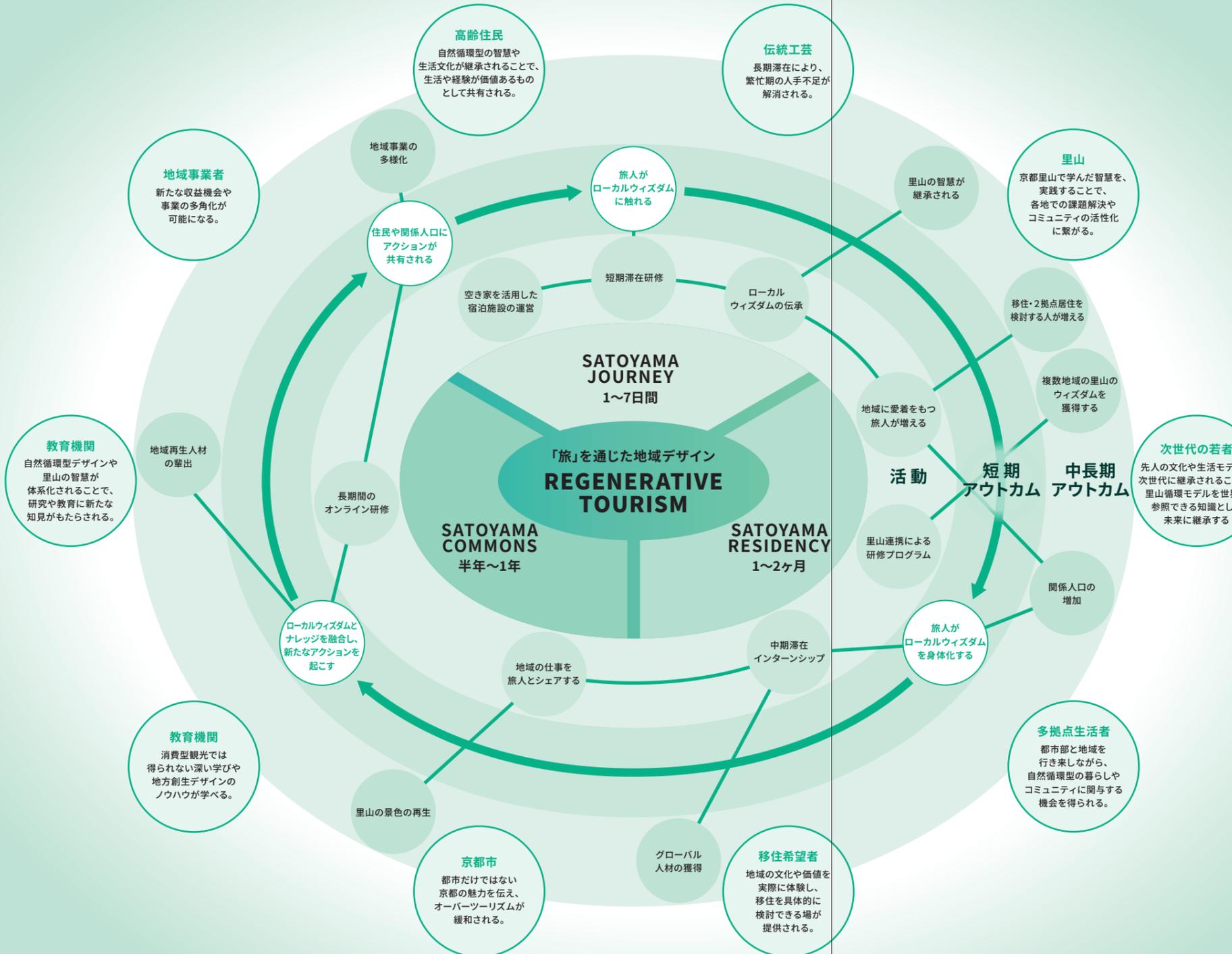
MICHAEL CHAN

1978年、香川県生まれ。ローマン・ブラスなど複数の外資系金融機関を経て2012年に帰郷(株)459を創業し、地域資源を活用したローカルビジネスの開発を手掛ける。2014年には編集長として「四国食への通信」を創刊。2017年、長男の誕生を機に妻の美家のある関西に拠点を移し、実務と研究の両面から食分野の課題に取り組むようになる。現在は、龍谷大学経営学部特任准教授として大学教育に携わるとともに、食農ビジネスに関わる複数の企業で、経営戦略の構築や、新規事業の開発に取り組んでいる。



# 05 課題解決のための方法(ロジックモデル)

Logic model and Social Impact



## ROOTSロジックモデル

ROOTSは、里山をフィールドに短期～長期のRegenerative Tourismを提供します。旅人が地域への滞在を通じてローカルウィズダムに触れ、里山への愛着が生まれ、旅人と地域の資源やローカルウィズダムが融合することによって、里山を持続可能にするアクションが次々と生まれるエコシステムを育みます。地域課題でもあり資源でもある空き家を宿泊施設として提供し、担い手が不足しがちな地域の仕事を旅人とシェアする事で、里山の景観を再生するとともに、次世代の地域を担う関係人口を増やすことによって地域再生人材を地域内外で輩出することを目指します。

持続可能な生活モデルが広がることで、環境負荷軽減や地域格差の解消、豊かなライフスタイルの多様化が進む。

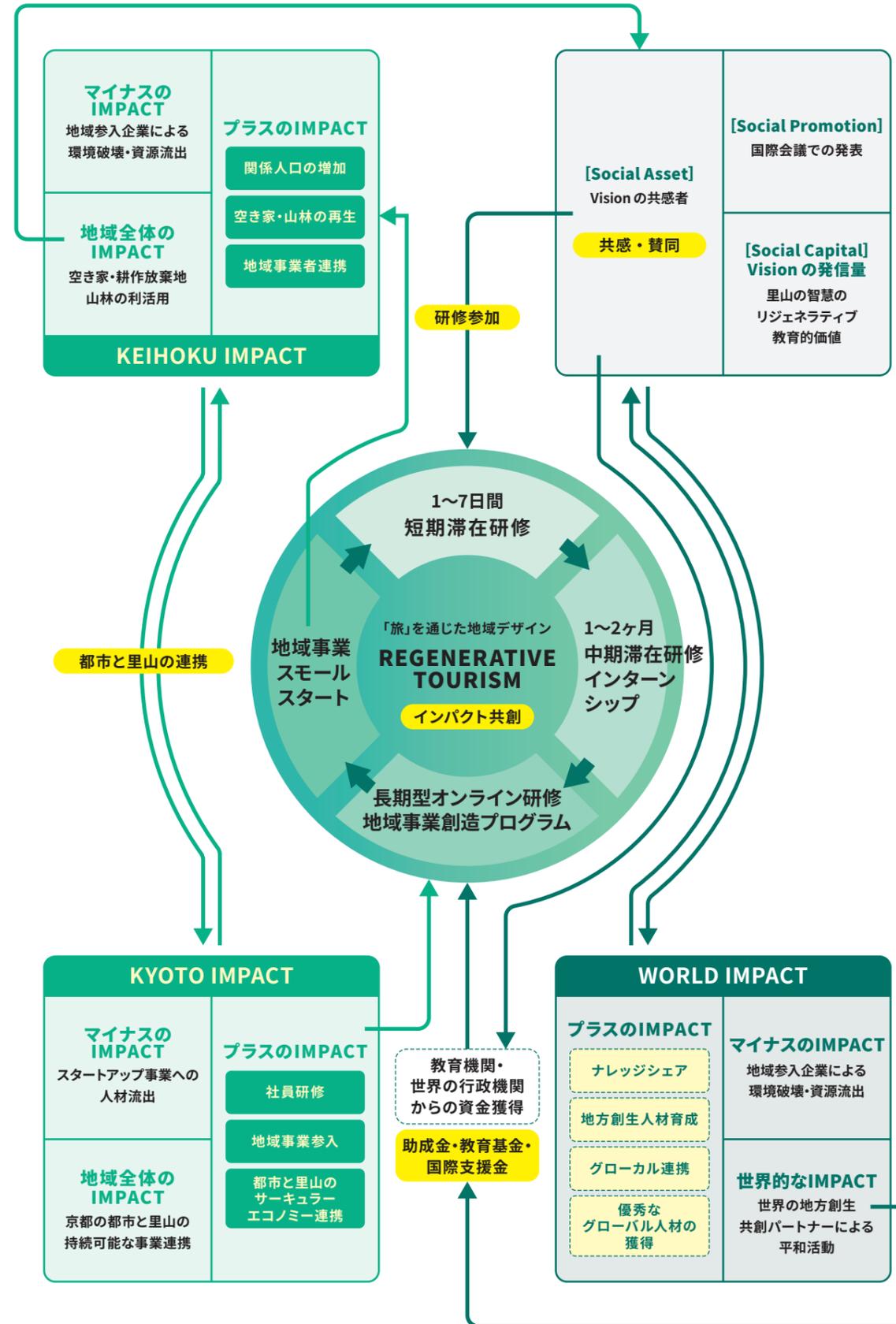
# 06 課題解決のための方法(社会的財務諸表)

Social Impact Statements

## ツアー参加者のアウトプットが 地域コンテンツとなり、関係人口が増加する

株式会社ROOTSでは、単なる体験学習の提供にとどまらず、参加者が地域の魅力を深く理解し、それをデザインの力で発信できるよう伴走支援を行っています。

ツアーに参加した学生やクリエイターたちは、地域の文化や伝統、自然環境、人々の暮らしに触れながら、それぞれの視点で魅力を再発見し、SNSや映像、デザインプロジェクトを通じて表現していきます。これらのアウトプットは、単なる個人の学びにとどまらず、地域の資源として蓄積され、新たな価値を生み出すコンテンツへと発展します。結果として、地域に興味を持つ関係人口の増加につながり、持続可能な地域活性化のモデルとなっています。



# 07 ROOTSビジョン

ROOTS VISION

## 日本の智慧と世界が共鳴する XWISDOM JAPAN

かつて日本海は、アジアに開かれた内海のような存在であり、交易や文化交流の要所として、多様な人種や智慧が行き交う場でした。大陸から伝わった技術や思想は、日本列島の各地でその土地ならではの風土と交わりながら独自の発展を遂げ、豊かな文化を育んできました。日本列島は、まるで漬物樽のように、外からもたらされた智慧や技術を独自の風土の中で熟成・発酵させ、各地域に根付いた多様な文化を形成してきました。山々が生み出す清らかな水、四季折々の気候、独特の地形が、長い年月をかけて地域ごとの暮らしの智慧や伝統技術を育み、現代にもその叡智が息づいています。XWISDOM JAPAN は、こうした日本の源流域に蓄積された先人たちの智慧を探求し、それを「世界の視点」と結びつけながら、現代の生きる術として活かします。私たちは、伝統的な智慧を単なる過去の遺産として捉えるのではなく、現代社会においてどのように応用し、新たな価値を生み出せるかを問い続けています。

## 身体性を取り戻し、 世界とつながり直す旅 - Life Seeking Journey -

AIやテクノロジーが進化し、情報が瞬時に手に入る現代において、改めて「旅」とは何かを問い直す必要があります。物質的な豊かさではなく、生かされているという実感。旅を通じて私たちは世界の認知を学び直し、先人の智慧を通して個人の変容を促します。既存の価値観や固定概念を解体し、身体性を取り戻すことにより、思考や論理の限界を突破でき、本当に生きたい社会を創り出す精神が生まれます。XWISDOM JAPAN の「旅-Life Seeking Journey」は、単なる観光ではなく、地域に根付く智慧を体感し、それを現代に活かすための学びの場です。参加者は、日本各地の源流域に足を運び、地域の人々との対話を重ねながら、持続可能な暮らしの本質を探求します。旅は社会変化を生み出す最初の原動力となるのです。